

摂津市協働のまちづくり推進委員会（第4回会議） <議事要旨>

開催日時	令和8年1月20日（火）10時00分～12時00分
開催場所	摂津市役所 本館2階201会議室
案件	1. 開会 2. 市民活動促進のための意見交換 3. 協働のまちづくり推進月間の取組について 4. その他
出席者	久委員（委員長）、柳瀬委員（副委員長）、久山委員、寺西委員、高雄委員、吉田委員、武友委員、松田委員、井関委員、末岡委員、北川委員、鈴木委員、中井委員、中田委員、松方委員
欠席者	なし
事務局	生活環境部長 吉田、生活環境部副理事兼自治振興課長 川本、自治振興課自治振興係長 林田、自治振興課市民活動支援係 緒方
オブザーバー	市長公室副理事兼秘書課長 有場、政策推進課長代理 橋本

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
1. 開会	
事務局	<p>本日はお忙しい中、お集まりをいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>ただいまから、摂津市協働のまちづくり推進委員会の第4回会議を開催いたします。</p> <p>本日の会議につきましては、全委員15名中14名の出席で、半数を超えておりますので、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。（※1名遅刻により出席者は15名）</p> <p>それでは、早速ではございますが、久委員長、議事の進行をお願いいたします。</p>
2. 市民活動促進のための意見交換	
委員長	<p>それでは、次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>まず、次第2の「市民活動促進のための意見交換」についてです。</p> <p>前回は、地域活動についての意見交換をしましたが、今回は市民活動ということで、地域を限定せずに公益活動を頑張っている方々の活動についての意見交換をしていきたいと思っております。地域活動と市民活動の協働というのがありますので、またいろいろご意見を賜ればと思います。それでは、意見交換に入ります前に、事務局から資料の説明をお願いします。</p>

事務局	(資料 1～5 の説明)
委員長	<p>この資料に対してのご質問、ご意見を踏まえて、今から意見交換をさせていただければと思います。前回、今回とフリートークをさせていただいておりますが、それに基づいて、今回の目的は市がどのような動き方をしたらいいのかというアクションプランを作るというのが最終目的でございますので、皆さんが頑張ってくださいの中で、市がこういう応援をしてもらったらいいよねとかいうお話もたくさん出していただくと、次回以降の計画づくりの中に反映ができるかなと思っています。</p> <p>ちなみに、私とか副委員長もお手伝いさせていただいて活動補助金の仕組みも動かしております。この中にも何人も使っていただいて活動が活発になった方々もおられます。その使い方の問題とか、あるいはお金という問題では、いろんなところは、市役所から応援をしてくれているのが補助金というのが多いんですけど、他にこういうようなことになったら費用面も助かるなどというお話もあると思いますし、それから場所の問題では、北側にはコミプラがありますし、南側には別府コミセンがありますし、様々な活動をする場所の問題もあろうかと思しますので、様々な思いの丈を今日は語っていただければと思います。</p> <p>ここからは、フリーにお話をいただければと思います。</p>
A委員	<p>前回、参加させていただいてお話を聞いていろいろ考えていたんです。従来のコミュニティ、自治会とか子ども会とかいろんな委員がありますよね。それがあって今後、まちづくり協議会とか自立型の方に移行していくにあたって、ここはどうしていくかみたいな移行期間なのかなと考えていたんですけども、いきなり今までのコミュニティの人に、じゃあこれから協議会にしましょうと言っても難しいと思うんです。で、今までのコミュニティ、従来のコミュニティが日本全国であちこち破綻してますけれども、人材の問題が一番大きくて、人がいないから掛け持ちでやっている。基本、ここはクローズなんです。入っている人たちは参加できる、外から見ると何をやっているか分からない、とちょっと私は思っていて、まず、この従来のコミュニティがいったい何があって、何をしていて、市からいろんなお金が出てるんですけど、出てるってことは何か事業をしてるんです。それは何をやっているかというのを整理していくと、おそらくかぶっているものもたくさんあって、それらを協力してやることはできるんじゃないかと思ったんです。それでも人がいないって問題は出てくると思うんですけど、その間はなんですけど、今も資料でイベントがいっぱいある。私も「ゆびまるこ」として活動していて、整理したんですけど、去年だけで 20 件ぐらいイベントに出ているんですね。大きいもの以外も。</p> <p>それは、例えば三宅だったら、井於神社の三宅の杜マルシェとか、もともと三宅を盛り上げたいっていうので、個人が旗を上げて、イベントを神社でやるから一緒にやってくれませんかというので集まった人たちで始まったんですけど、</p>

	<p>そういうフラッグ型、旗を上げてみんなが集まって盛り上げるというような感じがあちこちにあるんです。ということは、何かコンセプトとかお祭りとか旗を上げると、それに賛同して共感してくれる人たち、動いてくれる人たちは、たくさんいらっしやると思うんです。</p> <p>みしまつりにしても、あれは自治会ですけど、自治会だけでは運営ができないから、みんな一緒にやってくれませんかというので声がかかって、たくさん集まっているんです。どこも旗を上げる人がいて、それに賛同している人たちが担い手となって運営していて、それであちこちで盛り上がっている、出てきているというがあるので、前回もありましたけど、コンセプトで人が集まるとか、お祭りで人が集まるとか、地域で旗を上げる人がいて、それを支えるフォルダーみたいな登録したりしているので、今はLINEで流れてくるので、フォルダーみたいなのがあれば、担い手とか出たい人たちは登録しておいて、マッチングがおこれば移行期間として何か新しい形のものができるんじゃないかなとぼんやりと思っていました。</p> <p>先ほどA委員がおっしゃったお話のように、実はまちづくり協議会ができると動かしてほしいなというのがあるんです。前はどのような組織かという説明で、すでにあるいろんな団体が一堂に会して組織を作るという話をしましたが、運営の仕方としたら、どちらかというA委員がおっしゃったように、いろんな人たちがやりたいということを持ち込みながらその地域でも活動ができるような運営をしてほしいなというような希望です。で、してほしいなという言い方をしたのは、実はそうっていないところの方がまだまだ多くて、従来型の活動の仕方で動かしちゃうから、なかなか外から人が入ってこれないという場合が多いんですけど、本来はまちづくり協議会にまとまるということで運営の仕方を変えていただくと、もっとたくさんの人たちが入ってこれるのかなと思いますし、そのメンバーの中には、前回もありましたけれども、地域の団体だけではなくてNPOも企業も様々なものが入ってこれるようになっていて、その正規メンバーとしてそういう方々も入るっていうことになっていくというのが本来の姿なので、そんな形になっていけばいいかなと思っています。</p> <p>ちなみに、A委員のところにはお声がかかっているということで言えば、場所とお金を地域は持っていますので、そういう意味では、この場所とお金を地域から団体にお渡しをして企画運営をしていただくということも可能になってくると思いますので、そういうようなことを今、お話を聞きながら今後進めていければいいかなと思いました。</p>
委員長	<p>企業の方の意見としまして、基本的には日本もそうですけど、地域のイベントがありますと、協賛金を払ってください、協力してくださいという話になりますので、企業としてはお金、委員長が以前言われた税控除的のところもそうですし、あとは基本的には今は、一般的な費用、広告費であるか寄附なのか各企業でされ</p>

委員長	<p>ていると思いますけど、ただその団体が今まででしたら自治会がします、摂津市が共催しますとかそういうような形で団体がきっちりと分かっていると、企業としてはお金が出しやすい。逆に言うと、よくあるのが何々祭りをしますということで、チラシを持ってこられるんですけど、それがはたして反社会的勢力の2次団体、3次団体じゃないかというそのへんの判断が。正直私のところにも10年ぐらい前に市外のさくらまつりをしますので協力してくださいと知り合いから頼まれたとき、よくよく調べると暴力団の2次団体の資金集めみたいなお祭りというようなことがあったので、企業としては、イベントとかそういうようなもので協力できるところは今の時代、したいと思う企業はあると思いますので、その辺の団体がはっきりしたところの団体であるという証明、根拠となるような形のものがあれば、よりお金を出しやすいかなと思います。</p> <p>実はそのお話、20数年前に吹田市の北千里の地域で同じような問題が出てきたんです。何かというと、商店街で昔、よくシールをお渡しして、集まったら何か景品が当たるというような仕組みがありましたよね。その仕組みの中で、北千里の商店街の会長が旅行に行くとか商品券を渡すだけじゃなくて、地域貢献の活動で応援したいということで、そのシールを集めてきたら各団体の補助のお金としてお渡しをするという仕組みを作られたんです。そのときに私も相談ののって、先ほどB委員と同じような不安があって何でもかんでも手を挙げてもらって差し上げるってということだと、反社会的なものに差し上げると、商店街としても困ると。それでどうしたらいいですかという話を相談いただいたんですが、そこで今も20数年続いていますけど、今は2か月に一度、昔は毎月やっていたんですけど、交流会をやりましょうと。交流会をやって、お顔なじみになったら悪いこともできないし、その方がどんな方かっていうのが次にお付き合いする中で見えてくるでしょということ、誰かが何かお墨付きを与えるよりも、人間関係を作っていく中で、この方々だったら安心してお金を渡してもいいよねという関係を作れるでしょということ、井戸端会議が始まって今も続いているということなんです。お互い顔が見えていると、安心してこういうお金も渡しやすくなるということも一つあるだろうなと思います。</p> <p>実は、茨木市では商工会議所がこういう会をやってくださっているという話をしましたけど、これも10数年前ですけど、福祉の団体で集まって、つながりまつりっていうのをもう30年以上続けてらっしゃったんです。その話題を福祉団体の代表がお出しになって「お金に困っています」という話になった時に、商業団体連合会の役員が「お金に困っているんやったら企業協賛できるで」という話になって、「あんたらチラシ作るやろ。チラシに広告枠を作ってもらったら広告代として企業は出せるから、そういう仕組みを作ってくれ」ということで、それが始まりました。次の交流会で、福祉団体の方が「今回はパンフレットにくっつかの広告枠を作りました」という話になった時に、商団連の役員が「ちなみに一枠いくらや」という話の時に「三千円」と言ったんです。そうすると、その</p>
-----	--

B委員	<p>方が何とおっしゃったか「一桁間違っていないか。だいたい数万円は出せるで」という話になって、市民団体側からすると、千円、二千円がもう関の山と思ってらっしゃるかもしれませんが、企業からすると安心して出せるんだったら、広告料を出せるんです。そんな関係ができていくとうまくいくなと思いましたので、そこも毎月、顔が見えているからこそ、そういう関係ができていくということになりますので、具体的には今、摂津市でもぶっちゃけトーク会をやってはいますが、そういうところにいろんな方々が会って顔が見えてくると、そんな関係もできやすくなるんじゃないかなというように期待しているところです。</p> <p>なかなかB委員の会社もそうですけど、地域の団体は顔が見えているけれども、今日お集りの皆さんの顔というのが企業側からは見えづらいです。</p> <p>一部はもちろん存じ上げてはいますが、その辺各企業、うちうちで、今度、さくらまつりが千里丘であるみたいなので、自治会の方は協力はしております。</p>
委員長	<p>せっきくの機会ですから、こんなことがあったらもっと我々も活動しやすいなという思いをどんどん出していただければ、市役所もアクションプランに載せた限りは動かないといけなくなりますので。</p>
C委員	<p>市民活動団体に近いんですけど、そういう関係で私もお付き合いをさせていただいてよく分かるんですけど、ただ一つ気になるのが社会福祉協議会の中の地域包括支援センター、この地域包括の中身は、コーディネーターもいらっしゃるし、市民との関わりが非常に深い部分も持ってらっしゃる。地域包括支援センターっていったい何だろうと私も考えているんですけど、地域包括というのは団体、高齢者、介護を主力みたいに考えてらっしゃるのかなと思うんです。もっと地域包括の役割ってほかにあると思うんです。市民の皆さん、高齢者に限らずに関係性をもっと深くした方が、先の方を見てもまだまだ高齢化は増えていくわけです。そして元気な高齢者もいます。要支援1とか介護認定を受けている方もいらっしゃるけれども、8割方が資料2の表から見れば元気な高齢者です。まだまだ頑張れる、そういう人が社会参加をさせていただける機会を作った方が若い人との接する機会も増えてくるし、そういう方が新しい人的な支援になっていくと思うんです。</p>
委員長	<p>どうしてもケアが必要な方にターゲットが当たっているけれども、そうじゃない高齢者もたくさんいるわけで、そういう方々への何かアプローチみたいなものももっと地域とかでもあったらいいなということだと思いますけど。</p>
D委員	<p>地域のくくりでそれぞれのお考えでおっしゃるのはいいですけど、そもそもの存立自体は重要視はしていただかないと、全て地域包括支援センターが地域のま</p>

<p>委員長</p>	<p>ちづくりをやるというところまでいくと、それはちょっと違うのかなと思います。やはり地域包括支援センターというのは、高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して生活が続けられるように介護、医療、保健、福祉、こういったところがメインで始まったっていうのが存立なんで、間接的に協力してあげたりとか間をつないであげたりとか、そういうところはあるかと思います。従事される方も保健師であったり社会福祉士であったり、それぞれの専門の方が権利擁護でお困りであったりとか身寄りのない方がいらっしゃる、そういう方を支援するための組織ですので、あまり拡大的にまちづくりの中へっていうところは、一部はあってもいいとは思いますが、それを全面にっていうのはちょっと私は違うと思います。</p> <p>具体的には、茨木市は先ほど申し上げた商工会議所がやってくださっている交流会に地域包括のスタッフの方も入ってくださっているんです。それを呼びかけているんじゃないかと、向こう側から意見交換の場所に積極的に出てきてくださるということがなされています。ですので、意見交換の場はなかなかいいなと思っているのが、いろんな立場の方がこられますけども、それぞれの方に向かって何とかしてくれっていう言い方はあまり出ないんです。こういうことで今、地域でこんなことが起こっていますとか、こういうことに困っていますという話になった時に、それぞれ私が引き受けていったらいいかなという時は、自ら引き受けてくださるというような、名指しではない意見交換ができていているという意味ではなかなかいいなと思っています。特に今、地域包括支援センターが出ていますけれども、一番なかなか地域の中でも認知がまだまだ上がってこない方としてコミュニティソーシャルワーカーがおられます。コミュニティソーシャルワーカーも積極的に意見交換会に来てくださって、実はこういう役割を担っているんですというお話も解説もしてくださっていますし、そんなことも起こっていったらいいのかなと思います。</p> <p>先ほどお金の問題もきちんと仕組みを作らなくても意見交換の中でいろいろとできることってないですかねという話をさせていただいたのも、実は同じような話で誰々さんに動いてくださいっていうことになってくると、いやいやそれ違いますって話になるんですけど、こういうような仕組みが動いたらいいよねぐらいな話にとどまっておくと、うちできるんちゃうかみたいな話になって、もっと主体的に動いてくださる方も増えてくるし、そこから連携も進んでくるかなと期待しているところなんです。しっかり仕組みを作るとすればするほど、いろんなハードルにぶつかってなかなか実現できないっていう経験を私もさせてもらっていますので、あんまりしっかりした仕組みを作るよりもみんなが意見交換をしながら動かせる部分を探していく方がいいのではないかなと思います。</p>
<p>E 委員</p>	<p>協働のまちづくりという取組で、私の概念を改めて申し上げたいと思うんですけど、何を目的として仕組みを作っていくのかというこのところが、イベント</p>

を盛り上げていくのが目的ではなくて、地域の皆さんがそれぞれ、今なんで協働が出てくるかという、先ほども資料で説明があったように、地域的な人口の差とか、ここにはないんですけど前回申し上げたとおり自治会の加入率が下がってきて、自治会そのものが活動がなかなかしにくくなってきました。体力がなくなってきました。これが老人クラブでもこども会でもいろんなところで起こっている。地域の活動がそうだとすることを前回話しました。

一方で、今回、摂津市の防災計画の案が出されて、今パブリックコメントが出ています。コロナ前は、近隣に垂直避難、水害の場合は近隣で高い建物に逃げてくださいというのがあったと思うんです。今やコロナの最中に広域避難に変わっています。もう早く地域外に逃げて下さい、水がくるんだから。その時に懸念材料としては、要支援者の方を誰がサポートして逃げるんですか。どのタイミングで逃げるんですかということをはなかなか決められないし、誰がするんですかと、そもそもの受け手側どうなるのかということすら分かっていない。概念として持ち得てないです。そんな中で急に来て、普段からそういう情報を共有して役割なり何なり誰がじゃなくてどの部分で誰ができるんだろうか、どこまでできるんだろうかというのができてないと、広域避難の要支援者の方へのフォローというのはなかなかストーリーとして確実にできないということがあるので、地域の中でどれだけのかたまりがあるのかってことだと思えます。

そのかたまりを作る目的のために何が必要なのかっていうと、それぞれやってらっしゃるイベントの中でそれぞれどこにどういうリーダーの方がいらっしゃる、どういう方がいらっしゃるのということをまず日頃から知っている、知り合いになっているということがあって、そこから始まって行って、それやったらこの人がいるよ、これやったらこんな感じでやったらどうなんだろう。それから、平日の仕事であれば、外部から事業所に勤めてらっしゃる方が戦力になりますね。そういう状況によって誰がどう関わっていくのかを発想しながら何かの時、例えば災害が起こった時にどう動けるんだろうということを形にできるために人のつながりをつくってあげる。そのつながりをつくるのが目的であって、そのつながりをつくるためにどんなことが手段として考えられるのか、その手段でイベントをどんどんやっていけるのかっていう、僕はそう思っているんです。だから、イベントすることが目的ではなくて、最終的にはそういう仕組みを作っていたら、我々今70歳代ですけど、85歳になったら6割7割が要支援になるということ、自分の将来のために今自分が何ができるかということを手も考えて想像する、つながりをつくっていくっていう、その目的は何なんだということ、それをしっかりと持っておかないと。だからイベントなんかは、手段だと思っています。その手段の中で、どういう目的を持ってそこにつなげていくのかという基本的な考え方を共有しておかないと、イベントやってよかったね、ご苦労さん、終わってしまったらもったいない。むしろ、それは手段であって、目的ではないと僕は思っているの。

<p>委員長</p>	<p>まさしくそうだと思いますので、イベントで何を本来の目的にするかっていうことを、きちんと明確にしておいた方がいいなというお話と、もう一つは企業、特にE委員の地元の鳥飼地域は、企業が多い地域がありますので、企業が同じ地域の住民としてもいろいろパートナーシップを結んだらいいなというようなことだと思います。実際に私、JRの福知山線事故の後の支援もずっとさせてもらっていますけれども、あそこはちょうど工場街の近いところで事故が起こったんです。すぐに工場の従業員が出てくださって車両に挟まれている方は重機を出して救っていただいたり、あるいは、けが人をトラックで大量に輸送して下さったりということが、すぐに起こったんです。そういう意味では、やはり企業、事業者が持つておられる技術、技能、道具っていうのは、いざとなったら、すごく役に立つんですけど、先ほどお話いただいたように普段からの関係がないと、なかなかずっと動けないだろうなと思いますので、そのあたりの検討事項として考えていければなと思っております。</p>
<p>E委員</p>	<p>もう一つすみません。地域包括支援センターのお話があったと思うんですけど、以前茨木市の資料だとか一般的なまちづくりの資料を拝見しても、構成の中にそれぞれの既存の防犯であったり、NPOであったりという個々の組織がメンバーになっていますよね、図式として。つまり、それぞれの団体を解消してそこに、今やっている立憲と公明みたいな一緒の党に入れじゃなくて、それぞれ独立した組織の方たちが構成するんです。組織そのものの存在の理由であり、目指すところというのは、それぞれ独立しているんだけど、何かする時にできることをできる時に協力しましょうという形で作っていくのが本来の姿であって、強制的に負荷をかけるものではない。だから、自治会があるところは自治会が担ったらいいいし、自治会が解散して無いところは代わりの人たちでとにかく何か一緒にできたらいいよねという感覚でまちづくりの組織っていうのはあるべきだと、またそのように記載されていますよね。それぞれの組織がちゃんとあって、それがお互い助け合って協力していきましょうということなので、改めて何かあんたもこうやからもっとやれよという話ではないはずだと僕は思っていますので、それぞれの立場を尊重しながらお互いできることをできるだけつなげて何かしようという考え方を、基本的に僕はあるべきだと思っております。</p>
<p>委員長</p>	<p>茨木市は、私もいろいろお話しする中で、社会福祉協議会と商工会議所がとても仲良くなってくださって、何か企画をやる時も一緒に考えましょうということが多くなってきたんです。この前、コミュニティソーシャルワーカーの協議会が中心に地域の中での地域福祉のお話をしようという中で、誰にしゃべっていただきましょうという話の中で面白い話が出てきたのは、地域のお酒屋さんにしゃべってもらいましょうという話が出てきたんです。何かというと、お一人暮らしのおばあちゃんがいて、そのおばあちゃんは近所に身寄りがないので、「あんたに鍵預けとくわ」と、「いざとなったら、あんたが開けてくれ」という形で、その</p>

F 委員

お酒屋さんが鍵を預かっているっていう話をしていただいたんです。そういう意味では、いろんな人たちが手を合わせていくと面白い可能性も出てくるということです。そのような人のつながりっていうのは、どうやって作れるんだろうか、そういう情報をより広くみんなが共有して、うちの地域でもできるんじゃないかっていうような形で、いわゆる学び合うっていう機会はどうやって作れるんだろうか、そんなことも摂津市でも進めていただければいいなと期待しております。

実は、そこにオブザーバーとして来させてくださいっていう方が二人おられて、一人は運送会社の方、もう一人は銀行の方なんです。それは、なんで聞かせてほしいかという、配達をしたり、銀行の窓口に来られる時に、どうも認知症気味だっていう方が来られることも増えてきたんだけど、どうやってその方に対応したらいいかっていうのが我々もまだ見えてないので、こういう意見交換を聞かせていただくことで、何かヒント、手掛かりがあるんじゃないかっていうようなお話をいただきましたので、そういう意味では企業も同じような課題を抱えてらっしゃるので、共有できる機会があればもっとお互い学び合うってことができるんじゃないかなというふうに期待しているところです。

市役所側もどちらかというと、市民とか地域団体っていうところへの呼びかけはありますけど、企業への働きかけ、呼びかけというのがもっとも市役所側もあっていいのかなというように期待しています。特に、中小企業が多い摂津市ですので、そういう意味では地域密着型の動き方ができるっていう会社の方々も多いと思いますので、もっとも一緒に活動ができるようなきっかけになっていただければなと思っております。

ちょっと、今の流れとは違う話になっちゃうかもしれませんが、既存の団体をいかにつないでいっていかってという感じで話が今、進んでいるところがあるんですけど、それもとても大事な話ではあるんですけど、事実として各団体の基盤が弱まっているとか、人をそこに呼び込むみたいなのが非常に難しいっていうのがまず背景としてあって、そういう背景とは別に、地域地域で活動している人っていうのが団体に所属して、似たような別の団体に同じような人がたくさん入ってきているというところとは全く別の次元の話で、そういう団体に全然属さずに野良で結構がらがん活動している人が意外といるっていうのはあるかなとは思っています。そういう人っていうのは、地域っていう縛りに関係なく、摂津市にいないけど、摂津市にこだわらずいろんなところ、大阪に行ったり奈良に行ったり活動しているみたいな人を鎖つないでもどこかに行ってしまう人だけけれど、そういう人が都度都度地域に入ってきてもらえるような、せっかくいるんやから逃さないみたいな観点も入れていった方がいいかな。まあ、そういう人にどうやってアクセスするかっていうのは、団体やったらその団体に投げたらそこにいくんやけれども、野良の人にいかんアクセスするか、そういう人を活かしていける仕組みみたいなのも、せっかくやったら、そういう人をどうやって入れていったらいいかなというアイデアみたいなのをどこかに入っていたら活かせるのかなという

<p>委員長</p>	<p>気がします。</p> <p>先ほどF委員がおっしゃった、地域に縛られずに動いていらっしゃる方には、何タイプかいると思っているんです。どういうことかという、本当に地域を関係なく自分のやりたいことをやらせてもらえるところに行くっていう方と、本当は地域でやりたいんだけど、そういう場所、機会をなかなか提供してもらえないから仕方なく行っているという方もおられるし、さらには、ストレートに言うと、今の状態の地域の活動に首を突っ込んじゃうと逃げられなくなるので、それが嫌で線を引きしている方と、多分いくつかのタイプがいるかなと思うんです。で、一番最初に言った方はもう歯止め効きませんから仕方がないんですけど、他の方々ってというのは、うまく地域の中で活動をできる環境、機会をつくってくださるとたぶん、活動の一翼を担ってくださるんじゃないかなと期待しているんです。</p> <p>例えば具体的にいうと、泉大津市の旭小学校区という南海の泉大津駅のすぐそばの中心部ですけども、そこにまちづくり協議会ができたんです。その会長がなかなか前向きな意見をお持ちの会長で、福祉部会とか、子育て部会とかテーマ型で部会は作ると。けれども、隙間を残しとかなあかんとおっしゃったんです。隙間って何ですかって言ったら、これをやりたいっていう人には、その部会を作って、そこで活動をする機会をつくりたいんやおっしゃってたんです。その中で、今も動いている話でいうと、マルシェが始まったんですね。地域ですっていろんなところでマルシェをやっていた方がおられて、その方が地域でマルシェが始まった時に会長にどうおっしゃったかという、「会長、この機会を待ってたんや」と。「私は、本当は地域の中でマルシェをやりたいけど、そういう機会がなかったんで、こうやって作ってくださったら、私はもう優先的にこの地域の中のマルシェを担うという気持ちです」とおっしゃってくださったんです。そういう人って摂津市にもいっぱいいると思うんです。そういうことをうまく活用していただけるような、そんな環境が整っていけばいいかなというように思っています。</p> <p>これももう、ぶっちゃけ言わしていただくと、地域の活動にデビューしちゃうと足突っ込まれてなかなか抜け出せない。で、自分がやりたい仕事だけが回ってくるんじゃないで、いろんな仕事を押し付けられちゃうので、それだったら一線引こうっていう人がどんどん増えていっているというのが現状かなと思うので、そうじゃなくてここの部分だけ担ってくださってという呼びかけをされると、いろんな方々が地域でも活躍してくれるんじゃないかなと期待しているところなんですけど。そんな機会をつくるのがまちづくり協議会に切り替わるっていう機会ではないのかなと思っております。</p>
<p>D委員</p>	<p>先ほどE委員もおっしゃっていただいた中で、昨年鳥飼の方で2件ほど火事が続いたというのがあったんです。その中で、社会福祉協議会としても支援をしないといけないとなったときに、そこに要支援者の台帳もなかったんです。民生委</p>

委員長	<p>員さんもそこにどなたが住んでおられるのかわからなかった。社会福祉協議会としては、どうしたかと言うと、住宅地図を引っ張り出して、今の住宅地図って、個人情報保護のために名前が載ってないんですけど、昔の住宅地図は、マンションであれば何号室で誰まで書いてあるんです。それを一所懸命手繰って、ここにはご夫婦が二人いて、絶対二人いてはずやということで探したんですけど、わからなかった。結局、最後調べたときには、膝を悪くされて娘さんがいる滋賀県の方へ入院されていたということで、ご存命やったんで良かったんですけど、それぐらい地域の民生委員さんでも要支援者の台帳を確保されていない。で、今それを持つことすらも嫌がられる状況になっている。</p> <p>社会福祉協議会としては、先ほど包括の話もしましたけど、つながりとか、顔見知りをつくっていかんあかんというところを発想として持っていて、今、社会福祉協議会で何をやっているか、新しくやり出したのは、摂津市商工会さんと一緒にイベントナビっていうのをやり出して、イベントも発信しながら、地域の事業所さんの紹介もやっていて、そこからつながりをつくっていく作業をやっている。その中で、「よりそいクラブ」っていうワンコインでダンスの移動をしてあげたりとか、そういったところもやりながら、高齢者をデータベース化じゃないですけど、ここにはこんな人がいるというのを拾い出していく作業をやっている。地道ですけど。その中で気がついたときに、この方ちょっと認知症があるんじゃないかなというときに、先ほど言いました包括につないで、見に行っただけっていうつながり方をしている。それぞれの機関にはそれぞれの目的があるので、それをパーツとして使いながら、人の付き合いを広げていっている。</p> <p>先ほど申し上げたような事業所を紹介したところ、B型の事業所、作業所がありますので、今そこをターゲットにやっているんですけど、引きこもりをされていた方がeスポーツの会社を立ち上げた方もいらっしゃる。うちはまず、引きこもりの方のカフェを設置して、そういう方が来てもらえるような仕組みをつくっていて、組織でああやこうやというのではなく、先ほど野良でとおっしゃっていましたが、やる気のある、興味のある方、積極的にやられている方の知り合いをつくっていくというのが、最終的な組織上げになるのかなと思っています。今は地道ではあるんですけど、そういう活動を社会福祉協議会ではやっていません。それが一番、最終的にはまちづくりの目標につながっていくのかなと思っています。</p> <p>先ほどD委員もおっしゃっていただいたように、最近プライバシーの保護というのがどこも難しくなっていますけれど、プライバシーというのは、非常にわかりやすく言えば、自分が知らないうちに自分の情報を流されるっていうのがプライバシーの侵害になるので、自分から申告するという点に関しては、プライバシーの侵害にならないんです。だから、そういう関係をどんどん増やしていく中で、そのネットワークを張り巡らせていきましょうということかと思っています。</p>
-----	---

	<p>ちょっと参考になるかどうかわかりませんが、私も地域で自治会の役員をやっていたときに、ある高齢の方が敬老の日には景品が届かへんねやおっしゃったんです。年齢をお伝えしていますかって聞いたら、いや年齢は言うてないと。そりや言うてなかったら届きませんやんという話になって。そういう些細なことで、自分の情報を自分の気持ちでお出しできるっていうことができるんじゃないかと思っていますし、さらに参考になるかどうかわかりませんが、堺市のある地域で面白いことをやってらっしゃるのは、自治会長の思い付きなんですけど、毎年1月に封筒に緊急連絡先を厳封して、会長にお渡しをするという仕組みをやっています。1年後、新しく交換するというをやっている、1年間何事も起こってなかったら、その封筒は開いてないはずなんです。そういうように、誰かに見られたら嫌やというような人たちの安心感を少し高めながら、緊急連絡先を集めてくださっているという地域もあるので、いろいろ工夫をすれば面白いことも考えられるんじゃないかなというふうに思っています。</p>
G委員	<p>何のためにいろんなことをやるんですかということに私はものすごく疑問で、私は、前回も言いましたように国際交流やっているんです。外国人と接する。我々も歳は70代なんです。やっぱり若い人が多いです。若い人と接するのは楽しいからやる。お祭りもさっき話してましたよね。彼らの喜び、笑顔を見て楽しいからやるんです。先ほど言ったわいわいガヤガヤ祭も一時出たんです。というのは、外国人ブースを作って外国人はみんな集まることが好きなので、あと楽しかったなというのが。人間って、やるからには楽しまなかったら、面白くなかったら続かないと思うんです。だから、できるだけ今も考えているのは、外国の人に居場所をつくっていろいろやりたいなど。そのためには、市の尽力も必要だと思うんですけど、そういうことをしたら皆さん喜ぶんです。特にいろんな国の人が来たら、共通語が日本語なんです。日本語をみんな話して、各国の人と情報交換する。私のとこ住んでるのこうよとか、こういうもの食べてるよ。日本語教室でも、それが話題となって日本語をやる。彼らはそれが楽しくなる。そういうことに努めているんです。みんなが楽しんだら続く。そういうことを考えて、この今のやり方も考えたらいいと私は思っているんです。</p>
委員長	<p>その話をお聞きして、八尾市の山本小学校区のまちづくり協議会の会長さんの動き方を思い起こしました。その方がまちづくり協議会の会長になられて、まちづくり協議会の活動を考えるときに、まずみんなで今までの活動を、いわゆる棚卸しで全部出し合おうよと。それぞれの団体集めると100以上のイベントをやっていたんです。これ整理しようよという話になった時に、その方がおっしゃったのがまさに同じお話で、楽しいことを優先して残そうという話をさせていただいて、みんながやりたくないのは、どんどん削っていかうよという話をされました。</p> <p>その次の話もすごく面白くて、今までは、例えば防犯は防犯のイベントをやった、防災は防災のイベントをやった。なんかそれぞれの目的ごとにイベントをや</p>

<p>H委員</p>	<p>ってきたけれど、結局どんなイベントでも誰かが動かなあかんのやったら、そこで企画力がつくやろという話なんです。さらに、そのイベント当日にたくさんの人が集まって、顔見知りになったらネットワークができるやろと。企画力があり、ネットワークが強い地域にすれば、どんな問題が起こったって解決できるようになるやろと。だから、そういう意味では、イベントは楽しいんだけども、イベントを楽しんでいるだけではなくて、そこでいろんな人材が育成される。そこを狙ってイベントをやるんやでというようなお話をされていたんです。それも一考やなと思いました。参考にしていただければと思います。</p> <p>逆に、八尾の別の地域で井戸端会議をやっているときに、運動会の1か月前の会議のときに、なんとなくそういう話が出てきたのは、もうすでにいろんな役が割り当てられているんです。防犯委員さんがおっしゃったのは、防犯委員が入場門の番をしないといけない。防犯と入場門の番と何の関係があるねんという話になって、今までのように、何々の役の人はこの役なんやということはやめへんかということをおっしゃったんです。それも一つ、逆の意味での反省材料かなというふうに思いましたので、地域のやり方というのは、いろいろ変えていただくことによって、本当にやりたい人たちがやりたいことができるような活動になっていくんじゃないかと期待しているところです。</p> <p>先ほどのG委員のお話を聞くと、先ほどD委員の方からは高齢者のリストがないという話と同じように、地域の中で外国人の方がどれだけおられるか、どこにおられるかというリストがまだ地域の中ででき上がってないんじゃないかなと思うので、何かイベントを通じてそこも顔が見えるような関係ができたらいいなと期待しております。</p> <p>資料いろいろ作っていただきまして、ありがとうございます。この資料が出てきたことで、非常に頭が混乱しながら悩ましいデータが出たなと思っています。人口の差もあれば、いろいろな年齢の差もあれば、いろいろあるんですけど、結論、私の中のものの考え方からすると、どないしたもんやろなという非常悩ましいデータであることは確かなんです。まちづくりをするにしても、原点になるのは人なんです。人、物、金、情報、この4つの要素っていうのは、絶対的に必要なんです。今お聞きしていると、人の話とか物の話とかいろいろ出るんですけども、人については一言でいうと、つながりしかないんです。向こう三軒両隣、これが原点だと思うんです。向こう三軒両隣が、マンションがあり、いろいろ新興住宅地だと隣近所がなかなかつながってないなかったりだとかある。人のつながり、ここをどうするかってことに対して、必要なことは行事ではないというご意見もあるんでしょうけど、物に関する部分で言うと行事しかないんです。</p> <p>社会福祉協議会や私であれば老人会、要するに行事をすることで、人のつながりを持つしかないの、ここに焦点を当てるしかないやろなと思っている。これをしようとしたら、お金がいるんです。ただでできない。それを今度は人を集めてこないといけませんので、一般の人とか。例えば老人会で申し上げると、鳥</p>
------------	--

飼地区では毎年1回「鳥飼フェスタ」というシニアフェスタをやっているんです。これは、一時は500人くらい集まりました。ところが今は250人くらいしか集まりません。これはいろんな経緯があるんですけど、それはさておきまして、これを開催するにはお金がいるんです。参加してもらおうお弁当、お茶、出演者への粗品みたいなことを考えると、老人に参加費をくださいとなかなか言えないもんですから、企業さんからの寄附であったり、会員同士が各単一クラブからお金を出し合って、それを運営している。ということで、お金って絶対的に必要なんです。

その次に必要なのは情報なんです。あんなことします、こんなことします、こういうことします。だから皆さん、にぎわしで来てくださいねみたいなことがいるんです。それによって今、人が集まってきている。毎年1回にぎやかにやっているってようなことがあります。これを一つの例で捉えると、こういうのがたくさんあれば、それはそれでつながっていくんやろなと思います。つながりというのは、小さな5人、10人の単位、できれば30人くらいの単位で集まってくれたら一番スムーズに、まとまりのあるものになるんだろうなと思うんですが。どうしたらそういうものが作れるかという、私の頭では昔社会のことでしか頭が浮かんでこないの、それでは現代に合わないし。かといって、今の若い人たちの考え方や思いを我々が全員把握できているかと言ったら、それもちょっとと思うし。もう一方で、先ほどおっしゃったプライバシーの問題で、なにかにつけてその言葉が出てくるんですけど、そんなこと言うてたら前に行かへんやろと思うんですけど、現実にそうなんです。

もう一つは、65歳以上の年寄りも今22,000人くらいおりますけども、ここも考え方がバラバラなんです。わからない、わかりにくい。お金持ちもいれば、そうでない人もいるし、その中間もいる。そうなるとうからないんです。いろんな考え方をします。例えば、老人会に入らなくても、自分たち二人だけでよいとか、家族だけでいいんだとか。そういう人もいれば、孫が大事だから孫の行事には参加して、へそくり出して孫たちを大事にすると。いろんなケースが見受けられる。かといって、団体に入ったり、ボランティアを引き受けたりしようという思いの人も現実的に我々のところにはいますけども、かといってそれ以上という問題もないです。あとは、必ず長になる人の順番、後継者問題というのが、老人会の場合には絶えずそういうのが、一番最初にきます。80歳まではやるけど81歳になったら辞めるとか、75歳まではやるけど76歳では辞めるとか。そうすると、その後引き継いでくださいとお願いしても、「いやもう私、そんなレクするの大変やから辞めるだけ言うとかわ」みたいな会話も多々あります。今度それを企業さんに理解を得られるかと言ったら、企業さんは企業さんで60歳定年、65歳定年で、あと4~5年とはというような社会ですから、なかなか理解を得るのは大変だと思います。そうなったときに、この資料を見ながら、ずっと皆さんのご意見を聞いているんですけど、なかなかピンポイントに絞れるかと言ったら絞れないのが現状です。

もう一つ例えで申し上げますと、私がわいわいガヤガヤ祭を第10回大会までは

<p>委員長</p>	<p>実行委員でお世話していました。旗を振ったり、マイクを持って当日運営したりしていました。G委員にも来ていただいていたよ。そんなこんなで、一つのを立ち上げるのは大変というのはわかります。でも、そんな経験をしているから大変とは思いませんけども、この資料を見た段階で、今頭の中では混乱しています。でも、こういう資料作っていただいて、感謝はしています。もうちょっと注目する民間企業の行事があれば載せていただきたかったなと思います。私の中で考えがまとまらないなというのが思いです。</p> <p>私いつも講演会等でお話しする中で、今までのような全員参加型というのを目指すのをやめませんかという話をするんです。今は役割をみんなに均等に回そうということで、1年交代、2年交代で役員を変えながら、みんながやろうとしますけど、それがしんどいって思いをつくっていませんか。自分がやりたくもない仕事も回ってくるので、だったらもう組織に関わらないという選択をする方もいる。でも、自分がこれをやりたいというところに力を入れれば、もっともっとたくさんの人たちが地域でも活躍してくれるんじゃないかということで、私の希望とか今までの経験則で言うならば、2割が目標だと思っています。20%の人たちが積極的に関わっていただくと、すごい地域になっていくだろうなと思います。あとの8割の人たちには申し訳ない言い方になるかもしれませんが、呼びかけてもなかなか来てくださらない方とか、いろいろな事情があって関われない方々もおられるわけですから、その2割をしっかりとつないでいくことができれば、すごく活躍できるんじゃないかなというふうに思っています。</p> <p>茨木市はこういうこともあって、人が住んでいる定住人口だけではなくて、活動人口という言い回しを始めました。つまり、人口が減ってきてても、活動してくださる人の数が減らなければ、それはそれで問題は起こらないんじゃないかなという考え方なんです。そういう考え方の中でいうと、H委員のお話で言うならば、いろんな人たちが自分の気持ちで関わられるような、そんな仕組み、仕掛けというのを作ってくださるといいのかなと思った次第です。あまり、そういうのを数えたことないですよ。自分の気持ちで動いている人がどれだけいるか。一度数えてみると、それぞれの地域の別の意味での地域力の指標が見えてくるんじゃないかなと思う次第です。</p>
<p>D委員</p>	<p>なかなか活動する方の絶対数が、というところのお話かと思うんですけど、ちょっと言葉は悪いですけど、人と物は使いようみたいなのがあって、社会福祉協議会は大阪人間科学大学の学生さんが実習で来られるんです。その時に、ちょっと使って申し訳ないんですけど、赤い羽根共同募金に大阪人間科学大学の学生さんも動員させていただいて、こんな言い回しで、こうやって、入れていただいたら必ず頭を下げてというようなことをお願いして。そしたら、十何人来てくれるんです。やはり、箱が多ければ、共同募金のお金も当然増えていきますんで。そういった学生さんであるとか外部の方を、言い方悪いですけど、協力、利用し</p>

	<p>ていただけるとその分、活動の範囲は増えるのかなということで、そのへんは工夫かなと思います。</p> <p>今も既存で考えていたら何もできないなと我々も思っています。共同募金も会費もそうですけど、年々減っていく一方です。当然企業さんの開拓もお願いして、法人さんの募金のお願いは回っていますし、イベントがあればそこに立つように、何ならミyakミyakの着ぐるみを着ても立とうと思っています。やはり、そのへんは発想というか、言葉悪いですけど、何でもあり、法律に違反しない限りは何でもありでやらないといけないのかなと。そのへんぐらまで、現実的には切羽詰まっているなという感覚があります。</p> <p>大阪人間科学大学の学生さんも、見方を変えれば摂津市に通っている摂津市民の一人でもあるので、その学生さんも在学中は地域の活動とか市民活動を一緒にやりましょうよという呼びかけは、とてもいいことかなと思っています。</p> <p>そのあたり地域で長年うまくやってらっしゃるのは、味舌地域だと思うんですけど、具体的な話でいうと夏にやっているたそがれコンサート、JOCA さんも会場を提供してくださっていますけど、地域にいるいろんな人たちとか場所をうまく自治会の方がつないでくださって活動ができているといえば、大阪人間科学大学は味舌地区に所属していますので、そのあたりいろんな立場を超えた住民だけではない方々がどうやって一緒に活動できるかという仕掛けづくりも重要かなと思って聞かせていただきました。</p>
委員長	
I 委員	<p>私個人レベルの話も含めてになってくるんですけど、私は3年前から地域でコミュニティサロンをしています。たまたま前職の区切りをつけたタイミングと自分が考えていることが重なって、地域に目を向けることになったんですけど、目を向ける前ってほんとに何も知らなかったんです。自治会もどんなことをされているかもわからないし、こども会が無くなっている現状もうっすらは聞いているけれど、地域でどんなことが起こっているかもわからなかった。まちを構成している商工会さんだったり、社会福祉協議会さんを訪ねたのもこの活動をし始めて、初めてドアを叩きました。活動をし始めて自分の反省としては、自分を育ててくれた地域のことに見向きもせず今まで来たことがまず反省点だと思っています。周りの友達だったり同世代、地域に入って地域の人たちを見ていると、同じ世代って同じ感覚で、毎日日々忙しいし、子どもの世話もあるし家庭のこともあるし、これよりもうちょっと年を重ねていくと親の介護のこともある。そんな中で、どうやって地域に目を向けるのかっていうことも、一つあるかなと思っています。そういった意味で、何かしら地域に目を向けるきっかけが日常の中にあったらいいなと思うんですけど、それをどうつくっていくのかというのは、まちづくりに関しては課題があるかなと思います。</p> <p>先ほど楽しいことという「楽しい」というワードがあったんですけど、もちろん楽しいのもすごい大事、自分自身が活動を続けていくうえで、楽しさがない</p>

委員長

と続けられないし、そこは重要だと思うのですが、ただ楽しいだけだと、今活動しててちょっと参加してくれる方も、参加して楽しい、ありがとうで去っていくんです。地域で何が起きているかというか、人口も減っていくし、高齢化になっていってるし、担い手はいないし。そういうところまで見ないと、自分がちょっと楽しいから継続してやるかという気持ちにはならない。そこをどう育てていくかというのが重要なのかなと思います。

これは個人レベルの話であって、イベント系の話でいうと、私は自分が活動する中で地域の人たちに、こういう活動が地域にあるよというのを知ってもらいたいなと思って、地域のお祭りごと、小学校のPTA祭であったりとか、別府のコミセンまつりに出店させていただいております。そこで一つ残念だなと思っているのは、イベント自体はつながりをつくるために、防災のこととか、地域の人々の暮らしを守るためにももとはやっている、つながりをつくるためにやっているイベントだと思うんですけど、参加してもそれぞれ各々が運営に精一杯。遂行することが目的にすり変わってしまっていて、なかなか横のつながりってつくれないんです。ご挨拶する程度で止まるんです。そこから発展してもう一步、二歩の地域の話であったり、こういうことが地域であったよね、だから何かみんなできなかなとか、そういうことにはなかなか発展していかない現状がある。だから今、活動していらっしゃる方も意識を上げていく必要があるし、新規の方が何か意識を持つきっかけづくりもいるなと思っています。

もう少しいろんな仕掛けがあれば、次のステップにいけるだろうなというお話かと思うんですけど、先ほどI委員がせっかく集まっても、なかなか横の交流っていうのがどうなんかなという話がありましたけれども、ある市の市民フェスタ、市民まつりの実行委員会さんが同じようなことおっしゃっていたのが、実行委員会をやるけど、結局、みんな団体が別々にテントを出すだけで、全然横のつながりがないやないか、名前はずらずらリストアップされているけど、話す機会もほとんどないし、もうちょっと交じり合っただけの方が面白いんじゃないかという話をされていたことがあります。

そんな形で、せっかく集まってくくださるんだから、そのあたりの交流ができるような話をできたらなと思います。その好事例の一つですけど、大阪市内でぐりぐりマルシェっていう、農家さんが作ってくださった野菜を売るようなイベントをずっとやってくださっている方がおられるんですけど、その方は、テントの配置の仕方でも横つながりができるような仕掛けをしているんです。農家さんの横にはレストランの屋台を出して、そこで隣同士だから、一日やっていると話しますよね。そこで、農家さんとレストランのつながりをつくらうとか、そういうようなちょっとした仕掛けなんですけど、工夫することによってつながりのきっかけをつくっていくこともできますし、それから茨木市のおにクルは毎年、周年事業をやっていますけど、今年は何をやったかという、高校の軽音楽部に声をかけて、8つの高校の軽音楽部に集まっていたら、企画運営を全部高校生に任せ

	<p>るっていう形でやったんです。何度も話をしているうちに、高校をまたいだバンドを新しく作って一緒に練習しながらやろうよとか、そんな話が盛り上がってくるんです。</p> <p>そういう機会を提供してあげると、勝手に実行委員会の中でつながりが生まれていくってような経験もさせてもらいましたんで、ちょっとした仕掛けをどれだけやっていけるかというところが重要だなと思いますし、さらに前半部分のお話の中で言うと、お客様は増えても、ストレートに言うと、役に立たんやろなと思っているわけです。やはり企画側、運営側に回ってくださる人をどれだけ増やしていくかということがないと、たくさんお客さんが集まれば集まるほど、運営がしんどくなってくるだけの話になりますので、そこをどうやって企画側に引き込めるようにするかというところがポイントかなと思っています。</p> <p>尼崎市である団体さんが、いつもお金を稼ぐために、屋台を出して焼そばを売っているんですけど、国際交流のイベントで焼そばを売って何の意味があるのかなってような話もされていた団体さんもおられるので、そのあたりをうまく、何をイベントきっかけでより進めていけるかというところの仕掛けというの、もっとあってもいいのかなと思いました。</p>
H委員	<p>経験から申し上げますと、行事をするんやったら、祖父母と孫をおさえる。勝手に真ん中の親はついてくる。この構図が結構当たるんです。老人会もいろいろ行事をするんですが、福祉大会であったり、鳥飼うんぬんとかやったりしますが、その時に幼稚園に声をかけて、鼓笛隊とかありますよね。ああいうところの出演をお願いするんです。一つとか二つとか。そうすると、必ず親はついてきますし、幼稚園の先生方もついてくるし、若干のお土産は差し上げなあきませんが、必ず人は増えますし、そういうような数を増やしていけば、結構集まりのある、そこそこつながりのある行事は可能かなとは思いますが。ただ、今までやっているのが500人以下の規模ですから、それならそれで一つの目的は達しているのかなという気はしていますが、それは市全体でそういうことが、例えば、摂津まつりをキーにして、それらをわーっとやって、今委員長のおっしゃるようなものも入れてやったら、どうなるやろとイメージとしては沸くんですけど、実現性、要するに原点である人とのつながりのところにつながるのかなと今思っているような状況です。でも、いわゆる祖父母と孫をおさえたら、そこその行事は成功します。</p>
委員長	<p>先ほど、幼稚園に声をかけたらお土産も絶対渡さんといかんというのは、こちらから声をかけたら、お土産を渡さなあかんようになりますよね。面白い仕掛けをさせてもらったのが、大阪市鶴見区の榎本小学校区で「はなてん音楽サロン」という地域でミニコンサートをずっと継続的にやっているんですけど、私もずっと一緒にさせてもらっていて、中学校の吹奏楽部に演奏してほしいなっていう話が出たんです。私がちょっと入れ知恵をさせてもらったのが、一度中学生をその</p>

<p>F 委員</p>	<p>コンサートの聴衆として、聴いてもらう側で呼んだらどうですかって言ったんです。で、何人か来てもらいました。終わった時にどんな声がかかったかというのと、「私たちも演奏させてくれ」と言ったんです。やっぱりそうなるやろみたいな話です。で、その次の回は、中学校の吹奏学部にコンサートをやってもらいました。そうやって、その気になってもらうという仕掛けを作ると、たぶんいろいろやりたいなという人たちが、自分からやらせてくれと言ってくるんです。</p> <p>おにクルで軽音楽部に声をかけたのもそのノリなんです。というのは、軽音楽部って、文化祭と自分たちの自主コンサートしか、自分たちの演奏を聴いてもらえる機会ってなかなか持てないんです。だから、呼びかけたら絶対のってくるやろっていう話になって、それで声をかけさせてもらったんですけど、そういうちょっとした声のかけ方の違いで、お願いされて来てもらうという意識になってもらうのか、自分たちも一緒にやらせてくれという意識になってもらうのか、そこは大きな違いかなと思いますので、またご参考にしていただければなと思います。</p> <p>本当に基本的なところに立ち戻って、ちょっとピント外れな質問やったらあれなんですけど、まちづくりのこの推進委員会って今 4 回目までやっていますけど、これって何回あって、着地点は何でしたっけっていうのがちょっと今話聞きながら、別にいいんですけど、過去の自分のメモを見ながら、2 回目、3 回目ってちょっとメモを見ながら、今回の第 4 回のお話をずっと聞いていて、すごい興味深いお話がいっぱいあってなんですけども、フリートークでやっていこうという最初にそういう話があったなというのがあって、こうなっているのは全然いいんですけど、課題的な話があって、その答え合わせ、なんかこうドリルみたいなものを、後ろの答えをべらべら見ながら、ドリルを解いていっているような気分に今ちょっとなくなってしまっていて、私たちが問題があってこういう答えかなって言ったら、その答え合わせを先生らに言っていたいてっていうのを、今ちょっとずっとその繰り返しになっているのかなと思って、その着地点は何やったっけっていうところ、ちょっと同じことが繰り返されているかなっていう気になって、ちょっとそこを整理したうえで、どのへんに向かってこの話は収束していくのかなっていうのを、もういっぺんすいません。</p>
<p>委員長</p>	<p>冒頭にも私、整理をさせていただいたように、この 2 年間の私たちの役割は、市役所がどう動いたらいいかっていう、いわゆるアクションプランを作る。そこへ着地をするっていうのが一番の目的です。で、前回、今回、われわれは自由に発言させてもらいましたけれども、今ボールは事務局に投げていると思います。で、宿題は今事務局が持っていると思っていて、次回以降これをどのような形で計画に載せていくのかっていうところを投げ返してもらわんとあかんと思うんです。</p>

F 委員	<p>じゃあ我々は今、フリートークによって材料をいっぱい並べているっていう、調理をするのは向こうで、その調理するにあたっての、その素材なり、こんな味付けにしたらどうかみたいなのを、今わーっと出し合っているというイメージですか。</p>
委員長	<p>そうですね。今回は特にそうですけど、ほとんどが地域がこういう関係を作ってもらったらいいなとか、市民団体がこういう動き方してもらったらいいなという話が大半だったと思うんですけど、じゃあ市役所が何にもせんでいいかって話になったら、そこは考えてもらわなあかんです。</p> <p>例えば、具体的に言うならば、宝塚市は、協働がうまくいっている事例集を作ってくださっているんです。それであれば、ここの地域では、こんなにうまく動かしていますよっていうことの好事例をどうやったら情報共有できるかなという話を投げかけさせてもらっているのは、実はそういう一つ具体的に言うならば、協働のまちづくりの好事例集を市役所中心に編集してもらって、みんながそれ見たら、ここの地域ではこんな取組を行われているよっていうことがわかるような、そんな冊子づくりにつながってもらったらいいなと。</p>
F 委員	<p>それを見ての、課題に対する情報提供っていう形に今なっている。</p>
委員長	<p>そうですね。前はE委員の方から、茨木市は校区単位で新しいまちづくり協議会を作っていますけど、摂津市はどうですかという投げかけがあったので、それを摂津市は受け止めてくださって、まちづくり協議会を進めていくような仕掛けをしてくださるかとか、たくさん私たちは市役所にボールを投げていっていると思うので、あとはそれをうまく事務局サイドでまとめてくださって、次回以降返していただいて、それをたたき台に私たちは最終目標に向かっての話ができるかなと思っているんですが。</p>
F 委員	<p>私自身の考えなんですけど、まちづくりのことに興味があるからこういう場に参加させてもらっているというのはあるんですけども、ネットとか本を読みかじった程度の知識でいくと、各地でのまちづくりの成功例とか好事例みたいなのがたくさん世の中にあふれていて、そういうのを見て、やっぱりいいなとか、こんなまちになったらいいなって思うのがいっぱいあるけれども、なんかそういうまちづくりとかの失敗例みたいなのを聞くと、結局やっぱりいいなって思っただけを持ってきても、結局自分の地域にはフィットしないというか、結局そういうのは、その地に足のついている人が、その地についている人らでひねくり出してなんとかできたものであって、それをよその地域の人がもらってやっても、結局はうまくいかないのもたくさん見かけるので、なんて言うのかな、役所っていうのはやっぱりそういう人たちが地に足つけてひねくり出すのをどうやって支援するかみたいなのところがあるんかなって、ちょっと今その話を聞いて思いました。</p>

委員長	<p>そういうのを地域任せにするんじゃなくて、市役所もちゃんと随所随所で応援してくださいっていう形かなと思います。</p>
F 委員	<p>じゃあどういうふうに応援できるのかなっていうところです。だから結局、最初に野良で活動している人らがってという話もありましたけれども、そういう人って結構、機動力があって 一人コアな人がいて、その周りにお友達がわーって集まって、わーっと盛り上がって、しゅっていなくなったりするんです。そういう人らがやっぱりそこで持続的に活動を続けられるような、結局やっぱり支援が無かったら、支援が無いところで、もう別に私ここにこだわりあってやっているわけでもないしって言って、しゅっていなくなっちゃうっていうのは、やっぱりもったいないなみたいなものがあるから、そういう人らが継続的に活動していくような、市が支えてあげられたらなっていうのもちょっと過去にも見かけたりはするので、そういうところです。</p>
委員長	<p>もっと具体的に言うならば、先ほど名前を挙げました泉大津市の旭小学校区のまちづくり協議会は、立上げの準備の時から私ずっと3年間べったり地域に入って、全ての会合に顔を出して、いろいろアドバイスもさせてもらっているんですけど、そういうのを仕掛けてくださっているのは、市役所なんです。アドバイス料がいりますから、それは市役所から出してもらってやっているし、それだけでは人材が足りないということで、泉大津市の担当者が知恵を絞ったのが、J 委員も知っていますが、大阪市の地域公共人材という、地域に入っているいろいろ無償で手伝ってくれる専門家のリストがあるんです。それを見つけてくださって、大阪市のリストを使いながら、泉大津市でもお願いできますかと。その人たちに個人的に連絡を取って、一緒に入ってくれませんかということで、うまく人材に来てもらって、ただで活躍してもらったりするわけです。</p> <p>そういうような工夫は、当然市役所がいろいろ地域を応援したり、市民活動団体を応援するようなことをしっかりとやらしてもらわないといけないので、そこは全部丸投げで皆さん頑張ってくださいということにはならないはずだろうと思います。そこで、どういう支援を検討して下さるかというのが、また次回以降、市役所の方からボールが返ってきますので、それをメインに議論ができたらなと思っています。まあ、様々にフリークをさせてもらいましたんで、いっぱいネタはあると思いますので、次回以降は市役所の方から、それがどういう形で最後、落とし所に向かうかという投げかけを皆さんにはしてもらいたいなと思っていますところなんですけど、よろしいですか。</p>
E 委員	<p>市の関連で、数日前に鳥飼北小校区ですけど、鳥飼北小校区の学校協議会というのがありまして、会合に参加したら、コミュニティスクールの推進ということで、鳥飼北小はコミュニティスクールの公募には手を挙げてないんですけど、鳥</p>

委員長	<p>飼北小というのは地域の事業所の方とか自治会とか、子どもたちとのふれあいを通じていろんなことをやってらっしゃる。そのコミュニティスクールをやるやらんは別にして、鳥飼北小を中心とした地域の活性化、学校を中心にしていろんなところ、地域団体であれ、事業所であれ、それから社協の方もいらしてましたけれども、そういったことで、いろんな子どもたちや地域の方に関係する方たちに集まってもらって、学校を中心にやっていきましょうという話があったんです。その時に私質問したんですけど、やろうとしている理念が、協働のまちづくり推進条例ができて、やりましょうと言っていることとほぼほぼ重なる。同じなんです。コミュニティスクールとして学校を中心にということで、教育委員会でやってらっしゃる。</p> <p>それはそうなんです、一方で、その中でいろんなツールがありますよ。これは時間がかかるので割愛しますが、ものすごい地域のつながり、有効なツールを持って来られて、こんなんを地域に広めてということの説明がありました。では、このツールは自治振興課の方たちに共有されていますかと聞いたら、いやそれはまだというような回答だったんです。ところが、地域コミュニティの活性化に向けた条例制定委員会では、教育委員会の担当の方も3人ぐらい入ってらっしゃるんです。市として協働のまちづくり推進条例を作って、協働のまちづくりをやっていましょうというので、各部から委員の方が出てきてこの条例を作っているから、このまちづくりの理念というのは、各部門も共有していただいて、これに関係するところは情報を共有して、市として一つの方向性を持って、有効なツールを共有してということとされていますかという単純な質問しました。まさに、ものすごいツールだったので、こんなんあるんやってびっくりしたんですけど。これがまさに、地域に根差したアプリを展開して、全国展開の中の市としてもどう取り組むか。市の経費でそれを市として使うという形を持って行って、広く市民も使っていただいたら、実は自治会の中のグループ連絡網も個人情報を守りながらできるというツールなんです。それを自分たちはやりたいけれども、LINE グループではなかなか無理だなとってその次のステップが出せない時にそういうのがあって、そんな場に提供してもらえたんで、先がぱっと明るくなったわけです。</p> <p>そんなことで世の中っていろんなことが進んでいて、いろんな取組をカバーしてもらえそうなものがあるんですけど、もし、私が学校協議会に出ていなかったら、それを知らないままこの議論に参加したことになるんです。だから、やっぱり情報を共有し、かつ、せっかくスタートラインが皆さん一緒に議論してらっしゃるメンバーの方が来てらっしゃいましたので、そういう意味では、いろんな良いものを作るためには、統一感というのかな、うまく言えませんが。</p> <p>そのあたりの地域側から見た時は、別の見え方をしていると思うのが私の場合、いろんな分野で仕事をさせてもらう中で、地域福祉のお仕事をさせてもらっている時は、市役所の担当の方は福祉コミュニティっておっしゃるんです。教育</p>
-----	--

F 委員	<p>分野で仕事をさせてもらう時は、教育コミュニティっておっしゃるんです。〇〇コミュニティって言うんやけど、コミュニティは地域1つと違いますのっていつも申し上げます。それが、先ほどE委員がおっしゃる地域から見た時の見え方かなと思うので、地域とパートナーシップを結ぶんやったら、市役所が横断的に一緒に情報共有してもらわないと、地域は逆に混乱しますよっていつも申し上げていますので、市役所がどうお互いに横連携ができるのかっていうところの仕組みづくりをもっとやってねというお願いかと思っておりますので、改めて事務局でお考えいただいたらなと思います。</p> <p>ちなみに、F委員がお話しの延長上の話とE委員のお話を重ねて言うならば、実は私が今月、市役所の課長級以上の人に協働の研修の話を見せてもらいます。そこで、今自治振興課の方は一所懸命、協働を考えているけど、他の課の方も、本当に地域との協働とか、市民との協働をもっと真剣に考えてくださいよっていう話をさせてもらいますので、その意識を高めていくことをどんどんこれからもやっていこうよというの、たぶん基本計画の中にしっかりと位置付けていければ、継続的にそういうのができていくんじゃないかなと思っている次第です。</p> <p>今、学校の話が出ちゃったんで、あくまで、できるできないはさておき、私が個人的に前から思っていた話ではあるんですけども、こういう地域協働みたいな話の時に、どうしてもやっぱり小学校区というくりがすごく大事になってくるなっていうのがあって、なぜならば、小学校っていうのは、各地域に小学生が徒歩でいける範囲内にもれなくあるというその距離感っていうのが、私すごく大事やなと思っていて、地域に興味を持ったきっかけというのは、私は親が若年性認知症になりまして、要は若年性なので、その当時は入る施設も無ければ、全くそういうコミュニティに入っていくこともできないのに、非常に周囲に迷惑を掛けるような状況になってしまったということがあったんですけど、若年性に限らず、こういう人らが、これから高齢化社会でたくさん老人施設に入れないけど、地域で健康に暮らしてきたけど、ちょっとしたケアが必要だという人が大量に出てくる中で、そういう問題が頭にある中で子育てをしていて、PTAをやっていたので、小学校をなんとか地域で支えていこうとか、先生方がしんどいみたいなのを、保護者がもっと入って行って助けていったらいいじゃないかみたいなのが、同時に脳内で発生していた時に、小学校という所をもっと活用できたらいいのという思いがあったんですけども、結局PTAに入っていると、学校というのが、地域を排除ではないんですけど、あまり気持ち良く出入りできるような場所ではないですよというのがあったんです。</p> <p>でもやっぱりCSというのが、そこにもう一つ乗っかってきて、今度はまた地域に出ていきましょうみたいな話になってきて、学校はどっちにいったらいいんやみたいなのが、たぶん現場感としては絶対あると思うんですけども、やっぱりこれは文科省が言うからには、地域に開いていましょうという方向性で触れていかなければいけない中で、それでもやっぱり学校内の抵抗感みたいなも</p>
------	--

	<p>のがある。勝手にいろんな人が出入りしたら防犯上の話は当然ありますし、その子どものプライバシーの問題もあるという中で、地域が入れてよと言っても、やっぱり入れてくれへんみたいなのところはどうしてもあるから、そこはやっぱり市としてこうなんですみたいなのがあったら、もっと地域が学校を活用ではないですけど、これから子どもが減って行って、教室も空いているところをもっと使わせてもらいたいとか、いろいろ要望あるんだけど、そういうのがなんぼ地域が言うても入れてくれへんみたいなのは、やっぱり市がしっかりと指針を示して、ここまではこうとか、あとは学校を直していったりするタイミングで、当然市はご存知かもしれないですけど、他のエリアでやったらCSとかを観点に入れた上で、入り口を地域の入り口、子どもらの入り口みたいなのをしっかりエリア分けできるような形で学校改修を進めて行って、子どもらがいる時間帯に地域の人が出入りできるように、安全にセキュリティが保証された形で、地域で活動していけるようにしていくとか、そういうのってやっぱり行政ができることなんかなっていうのをすごく思っていて、その地域活動の拠点が結局課題じゃないですか。我々って、そういう時に学校を使わせてくれるっていったら、すごく安心感があるし、どこどこ出て場所どこなんて言わなくても、何何小学校ねと言ったら、みんなが分かる。で、みんなが歩いていける。そういう場所に学校がなくなっていったらいいなという思いはすごくあります。今すぐじゃなくても将来的に。</p>
<p>委員長</p>	<p>これも戦略ですよ。先ほど出した泉大津市の旭小学校区のまちづくり協議会の準備会をやったのは、小学校にあるコミュニティルームでやったんです。泉大津市も同じように地域が使える教室を必ず各校1個ずつ作っていきこうっていう動きで動いていますし、大阪市はもう古くから全ての小学校に地域ルームっていう形で地域の方が入れるような仕掛けをしてくださっていますので、摂津市もそういう形でどんどん地域開放を小学校もやってくださるといいなと思っていますので、その呼びかけをここからさせていただいたということです。また教育委員会がどういう判断をされるかというのがありますが、他の市では進んでいますからね。そういうところをうまく使っていただければと思います。</p> <p>B委員の千里丘小学校も今改修中ですけど、そういうところが1か所できたら、とても地域も使いやすくなるかなと思いますけれども。</p>
<p>E委員</p>	<p>反面、今日いただいた資料を再確認しているんですけど、前から申し上げているとおりで、鳥飼なんていうのは、もう今、鳥飼東小が合併で、来年度から鳥飼小になりますけど、鳥飼小自体がどうなんだということ、それから五中の考え方っていうのは、もう答申で出ています。それに加えて、34年後はもう摂津小の920人よりも少ない数の児童生徒になるという地域性もあるし、だから今、学校を中心にとあるけど、学校そのものが無くなっていく地域がこれから出てくる可能性が非常に高い。だからこそ、今のうちから、三宅小学校は小学校が無くなって元小学校を中心に活動されているように、学校があるからじゃなくて、学</p>

委員長

校であった場所があったから、当時その学校のつながりがあったから、そのつながりをベースに維持できているというのがあるのがあるので、例えば小学校単位でその地域を考えようという考え方のベースは原点にあるのならば、今、学校が機能している間にその地域の方にそういうイメージをつくってもらえるような、学校が統合で無くなったとしても、その地域だけが残るようなイメージを持ってまちづくりを進めていかないと、しかもそれは5年10年かかる話なので、今からそういった感じでやらないといけないのは一つで。

それから、ちょっと気になるのは、行政にやってもらうというのではなくて、行政は私たちが動きやすいようにサポートしてくれる体制をどう作ってくれるかが大事であって、それを受けて我々がどうするんだということが根本にないと、行政の方は2,3年で担当が変わられますし、それから現実問題として、摂津市にお住まいになっている職員の方もだいぶ減っています。OBになっても市民として残って、一緒にやろうという人がだんだん減っているんです。これが現実です。誰の責任でもないです。ただ事実がそうです。だから、やっぱり今住んでいる我々がどうするんだというところが前面に出てないと、こういう議論はベースがそこにあって、我々がそういう気にならないと、いくらいい枠組みを作っていたとしても、ああそうですか、ご苦労さんで終わっちゃうんで、ここのところが一番大きな課題であり、そのために人材がいるんだというところの把握を早くしないといけない。摂津市の現状がどうやということと、どうなるのかというイメージを持ちながら、やりたい方がやるような。

ある意味で、大阪市内でいうと生野区がかなり子どもが減ったということで、12校あった小学校が今4つに統合されたんです。大変なことです。もうすでに起こっています。で、8の小学校を今民間にお渡しをして、いろんな使い方をしてもらっているんですけども、その時に地域からよく出てきた話は、地域ルームってあったやろ、いざとなったら避難所になるっていう場所やったんじゃないかと。そういう所を民間に渡した時に、保証してくれるんかという意見が出てきたので、今民間にお任せする時も、お渡しする条件にそれを付けているんです。地域の人が使える場所を作ってくださいねということ、それからいざとなったら避難所として使えますよということを約束してもらいながら、民間に使っていただくことができているんです。そういう基本をしっかりと教育委員会も共有していただくと、そういうことができると思いますので、そういう呼びかけでもあったのかなと思いますので、またいろいろお考えいただいたらと思います。

まだまだあろうかと思いますが、12時に近づいてまいりましたので、もし言い忘れたこととか、後日思いついたことがありましたら、事務局の方に個別に連絡をしていただきますと、計画の方に盛り込ませていただければと思います。

3. 協働のまちづくり推進月間の取組について	
委員長	次第3の「協働のまちづくり推進月間の取組について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	(協働のまちづくり講演会について説明)
委員長	ご質問等がありますか。よろしいでしょうか。 では、この内容で進めさせていただきます。
4. その他	
委員長	では最後、その他、事務局の方からよろしくをお願いします。
事務局	事務連絡、2点でございます。 1点目につきましては、令和7年の委員報酬について、源泉徴収票を会計室から明日発送する予定にしております。確定申告が必要な方につきましては、税務署への申告をお願いします。 2点目につきましては、次回の会議は、「3月31日(火)午前10時から、市役所7階講堂」で予定しておりますので、ご予約おきくださいますようお願いいたします。開催通知につきましては、後日送付させていただきます。 以上、事務連絡とさせていただきます。
委員長	それでは、これをもちまして、摂津市協働のまちづくり推進委員会の第4回会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。